

各部門別事業実施状況

事務部

<法人事務等>

1 評議員の状況（令和2年度末現在）

評議員の氏名	職業等	評議員選任・解任 委員会決議年月日	任期
天野 隆博	太陽の門家族会 会長	平成29年3月3日	平成29年4月1日～令和3年6月
杉山 輝雄	無職	平成29年3月3日	平成29年4月1日～令和3年6月
武田 伸六	行政書士	平成29年3月3日	平成29年4月1日～令和3年6月
柴田 和生	足柄療護園事務局長	平成29年3月3日	平成29年4月1日～令和3年6月
肥土 実	神奈川県重症心身障害児を守る会 副会長	平成29年3月3日	平成29年4月1日～令和3年6月
堀内 勇	(福)福音寮 理事	平成29年3月3日	平成29年4月1日～令和3年6月
牧野 賢一	(特非)UCHI 理事長	平成29年3月3日	平成29年4月1日～令和3年6月

・任期中に退任した評議員（再任された者を除く） なし

2 理事の状況（令和2年度末現在）

理事の氏名	・理事の役職 ・常勤・非常勤の別 ・職業	評議員会 決議年月日	任期
内田 恵之	理事 常勤 風祭の森 理事長	令和元年6月19日	令和元年6月19日～令和3年6月
大川 俊哉	理事 常勤 太陽の門 施設長	令和元年6月19日	令和元年6月19日～令和3年6月
伊藤 崇博	理事 非常勤 (福)常成福祉会 専務理事	令和元年6月19日	令和元年6月19日～令和3年6月
飯田 美枝子	理事 非常勤 無職	令和元年6月19日	令和元年6月19日～令和3年6月
篠崎 登	理事 非常勤 (医)三成会 新百合ヶ丘総合病院 乳腺・内分泌外科部長	令和元年6月19日	令和元年6月19日～令和3年6月
小川 陽	理事 非常勤 (福)唐池学園 北貴志園施設長	令和元年6月19日	令和元年6月19日～令和3年6月

・任期中に退任した理事（再任された者を除く） なし

3 監事の状況（令和2年度末現在）

監事の氏名	職 業	評議員会 決議年月日	任 期
鈴木 利明	無職	令和元年6月19日	令和元年6月19日～令和3年6月
山田 豊	税理士	令和元年6月19日	令和元年6月19日～令和3年6月

・任期中に退任した監事（再任された者を除く） なし

4 評議員選任・解任委員会委員の状況（令和2年度末現在）

委員の氏名	職 業	理事会 決議年月日	任 期
渡辺 貞	無職	令和元年6月19日	令和元年6月19日～令和3年6月
鈴木 利明	無職	令和元年6月19日	令和元年6月19日～令和3年6月
高橋 徹	(福)風祭の森 職員	令和元年6月19日	令和元年6月19日～令和3年6月

・任期中に退任した委員（再任された者を除く） なし

5 評議員会開催状況

第67回評議員会（6月23日 みなし決議）

議 題：令和元年度計算書類及び財産目録の承認について
報告事項：令和元年度事業報告の内容報告について

第68回評議員会（12月10日 みなし決議）

議 題：1 令和2年度上半期決算報告案
報告事項：1 令和2年度上半期事業報告の内容報告について
2 令和2年度第一次補正予算の内容報告について
3 社会福祉法人風祭の森育児・介護休業規程の一部
改正について
4 小田原市「基幹相談支援センター事業」、「障がい
者相談支援事業その2」の運営法人応募について

第69回評議員会（3月22日7名中6名出席）

報告事項：1 令和2年度第二次補正予算案
2 令和3年度事業計画案
3 令和3年度予算案
4 社会福祉法人風祭の森 職場におけるハラスメントの防
止に関する規程の制定について
5 新型コロナウイルス感染症対応状況について
6 令和3年度社会福祉法人風祭の森組織について

6 理事会開催状況

第94回理事会（6月1日 みなし決議）

- 議 題：1 令和元年度事業報告案
2 令和元年度決算報告案
3 社会福祉法人風祭の森運営規程（4 規程）の一部改正について
4 社会福祉法人風祭の森管理規定の一部改正について
5 定時評議員会の招集及び決議の省略について

第95回理事会（11月9日 6名中6名出席）

- 議 題：1 令和2年度上半期事業報告案
2 令和2年度上半期決算報告案
3 令和2年度第一次補正予算案について
4 社会福祉法人風祭の森育児・介護休業規程の一部改正について
5 評議員会の招集について
- 報告事項：1 理事長の職務執行状況報告について
2 小田原市「基幹相談支援センター事業」、「障がい者相談支援事業その2」の運営法人応募について

第96回理事会（3月12日 6名中6名出席）

- 議 題：1 令和2年度第二次補正予算案
2 令和3年度事業計画案
3 令和3年度予算案
4 社会福祉法人風祭の森 職場におけるハラスメントの防止に関する規程の制定について
5 評議員会の招集について
- 報告事項：1 新型コロナウイルス感染症対応状況について
2 令和3年度社会福祉法人風祭の森組織について

7 監事監査

5月15日実施 指摘事項なし

8 定款変更申請

なし

9 法人登記変更申請

資産総額の変更登記（6月24日）

10 医療法第25条第1項の規定に基づく立入検査

新型コロナウイルス感染症の対応によりなし

1.1 職員配置状況

(1) 入・退職者

入職者 介護士1名 デイ介護士1名 デイ運転士2名 放デイ看護2名
放デイ介護士2名 相談員1名 児童発達支援1名 事務職3名
(うち1名はひまわり) ランドリー作業員4名 (計17名)
退職者 生活支援課長1名 理学療法士1名 介護士2名 デイ介護士1
名 デイ運転士1名 放デイ介護士2名 地域活動支援員1名
事務職2名 ランドリー作業員4名 (計15名)

(2) 職員配置状況 (令和3年4月1日現在)

・施設部	常勤 52名	非常勤 14名	嘱託 2名	計 68名
・地域支援部	常勤 25名	非常勤 14名	嘱託等 7名	計 46名
・事務部	常勤 5名	非常勤 7名	嘱託 1名	計 13名
・合計	常勤 82名	非常勤 35名	嘱託等 10名	計 127名

(3) 職員求人状況等

・求人方法 法人ホームページ、ハローワーク登録、新聞折込広告掲載及びネ
ット求人3回、人材紹介事業者7社等
・面接人数 看護師3名、介護士5名、指導員1名、相談員1名、管理栄養士
2名、
事務職5名、ランドリー作業員5名、ドライバー2名

施設部

重症心身障害児(者)施設

(生活支援課)

1 利用者の在籍状況等について 令和3年4月1日現在

- (1) 長期入所者 47名 (準超重心9名、その他38名)
- (2) 中期入所者 在宅重心児者が1か月程度の範囲で利用
実人員9名 利用延べ日数350日 (前年同月比47%)
- (3) 短期入所者 在宅重心児者が休養等様々なで利用
実人員28名 利用延べ日数643日 (前年同月比100%)

※令和2年度「長期・中期・短期入所ベッド稼働率」別資料【表1～3】参照

2 利用者の生活支援について

(1) 支援体制

医師、生活支援員、看護師による日々の申し送りや連絡、必要に応じてリハビリスタッフや栄養士などを交えた検討を行い、福祉と医療が連携した総合的な支援を行っています。

利用者のグループをN側、S側の2グループ体制として、生活支援と看護スタッフを分けて、利用者支援の役割と責任を明確にした支援体制により、スタッフの動きが機能的にして、きめ細かな介護・看護体制を維持しています。

今年度当初より新型コロナウイルスの感染対策によりN側、S側の利用者の交流について可能な限り避けてスタッフ一同連携して感染予防を念頭におき利用者支援に取り組んでいます。

(2) 個別支援計画

個別支援計画及びモニタリング実施時には担当者会議などを通して、職員には基本的な考え方から具体的な作成方法など再確認していきました。

担当者会議においては生活支援、看護、リハビリ、栄養の面からモニタリングを実施し、下半期年度における個別支援計画を立案しました。本人・家族・後見人に対して個々の面談につきましては、新型コロナウイルスの感染対策の一環として面談は実施せず、計画書を送付し書面での署名・押印を実施しました。

(3) 日中活動等

日中活動については、新型コロナウイルスの感染対策の理由により例年春先から実施していた外出をとまなう活動や地域の活動参加など予定どおり実施できませんでした。しかし感染対策をとり小集団で活動を行うなど実施方法を工夫して、利用者支援の充実を図りました。

ア 日中活動 別紙資料【表4】参照

入浴日(火・木・土)以外の午前と午後の時間に、個別や集団による活動を実施しました。

主な活動としては、手遊び、水遊び、歌遊び、光遊び、シーツブランコ、マッサージ(リラクゼーション・ストレッチ)、アロマセラピー、壁面やポスター作り、絵本、お洒落タイム、エプロンシアター、散歩、探検隊と称してリハチームと共同で探索ゲームやキックベース大会など、スタッフが創意工夫をした活動に努めました。

また、好みが合う利用者同士のクラブ活動も行っており、コーヒー、デザート、音楽などを楽しむ活動も行っています。普通食を召し上がっている方はお楽しみ昼食会として駅弁を購入し、普段と違った味わいを楽しみました。

活動の際には、個々の利用者の笑顔の写真を撮り、スタッフのメッセージを添えて、お便りなどで家族や成年後見人にお渡ししています。

この他、陶芸活動やボランティアによるピアノや紙芝居など実施していたものは感染対策の関係で中止としています。

イ 行事等

毎月の誕生会、端午の節句、七夕祭り、かき氷大会、花火大会などの行事

を行い、季節感を味わっていただきました。

毎月の行事の1つとして「替り風呂」を行い、血行促進や美肌効果がある紅茶、コーヒー、バラ湯などを行いました。

また、今年度は成人、還暦、古希を迎える利用者がおり、行事としてお祝いの活動を実施しています。

ウ 外出 別紙資料【表5】参照

前記のとおり活発な利用者個々の目的に応じた外出はできませんでしたが、新型コロナウイルスの感染状況により密をさけて施設周辺の散歩やドライブのみの外出は、実施しました。

エ 家族室やヴィエント（食堂）での小集団の活動 別紙資料【表6】参照

食事や喫茶、フラワーアレンジメントやミニコンサートなどを3～4人の小集団でのお楽しみ会を実施しました。少人数ならではの、関りの濃い時間を過ごしています。

(4) ボランティア

今年度当初より新型コロナウイルスの感染対策により施設内にて実施されるボランティアについては受入を中止しました。7月からは施設外の別室で衣類補修等を行う地域ボランティアの受入を開始していましたが、2021年1月に再度発令された緊急事態宣言により、1月から3月までの地域ボランティアの受け入れも中止しました。

(5) リスクマネジメント

事故・ヒヤリハット報告の提出の促進、分析と対応策の強化・徹底を行い安心・安全な生活の確保に努めました。

上半期 誤薬と右大腿骨骨折（接合部のプレートが折れる）、下半期 インフルエンザワクチンの重複接種と大きな事故がありました。それぞれ事故発生時を含め数回の振り返りをする会議を設け、施設全体で再発防止にむけて周知徹底いたしました。

全体として個々の大小に問わず事故・ヒヤリハット報告をすることに意義あることを念頭におき常に検証を行い、リスク委員会で法人全体への周知や予防策を周知し生活上の危険回避にも努めたいと思います。

(看護課)

1 利用者の健康管理について

(1) 日々の全身状態の観察

日々の検温、脈拍測定による全身状態の観察に加え、今年度は血中酸素飽和度を測定し、呼吸状態の把握に努めました。また、排泄や食事量のチェックの他に定期的な血圧や体重測定、血液・脳波・レントゲン検査を実施し、利用者の健康管理に努めました。また、皮膚や消化機能の観察など日々の全身状態の観察から

個々の状態に合わせたケアを行うことにより、悪化を予防し、管理を行いました。

(2) 通院など

小田原市立病院(循環器科、婦人科、内科、整形外科)、山近病院(循環器科)、静岡てんかん・神経医療センターなど延べ19名が専門医療の受診をしました。

(3) 感染予防について

・新型コロナウイルス感染症対策

国レベルから周辺都県、市での発生状況の把握、情報提供を行い、予防のための手洗い、マスクの利用、不用不急の外出を控えること、3密を作らないことに対して適宜朝の会などの機会に注意喚起を行いました。また、コロナ対策委員会を月1回程度開催し、感染状況や対策の確認、事業の開催など話し合い、情報の共有、決定を行いました。

職員は出勤時と勤務前の検温の記録を残して管理をすることに加え、食事介助時などエアロゾル発生リスクのある場面ではゴーグルを使用し、予防対策の強化を行いました。3月に職員全員を対象にPCR検査を2回行ったが、いずれも陰性を確認することができました。

利用者に対しては、体温測定と酸素飽和度測定を毎日2回に増やし、健康チェックを強化すると共にS側、N側の交流を制限し、発熱などがみられた場合は、個室管理とし、感染拡大の予防に努めました。

ボランティア含め、外部からの入所スペースへの立ち入りを中止しました。面会については、窓越として、月平均20件ほどありました。また、緊急性を考えた場合以外の外来受診は控え、訪問歯科についてもコロナの感染拡大に合わせて中止しました。

短期入所者は緊急事態宣言発令中の受け入れは中止していましたが、解除後は、受け入れ開始し、短期入所者は入所期間中、中期入所者は1~2週間個室対応とし、一定期間交流を管理するなど感染予防に努めました。

医療物資について、市や福祉協会などからの配給に加え、他部門と協力しながらマスクやエプロン、手袋、消毒用物資など納入状況に合わせて調達、管理を行ないました。

その結果、今年度施設部内での発症は見られていません。

・インフルエンザ感染症対策

新型コロナウイルス感染症対策の対応としての感染予防で本年度はインフルエンザの流行はありませんでした。

2 専門的な知識・技術に支えられた看護の提供について

毎月行う看護課会議、ケースカンファレンスで日々の看護を振り返るとともに、個々の経験、知識を持ちより、個別性のある安全・安楽に配慮した看護について話し合い、日々の看護に反映しました。

内容：検討内容

- ・申し送り内容・方法について
- ・ケースカンファレンスの内容、進め方について
- ・業務内容について(排泄ケア・感染予防方法・
- ・コロナ対策について

- ・カテーテルチップの国際規格変更について
- ・短期利用者の急変時の対応について 他

情報共有

- ・薬の投与方法と確認方法の変更とそれに伴う業務時間割の変更
- ・新しいオムツの導入による効果の評価と業務時間割の変更
- ・物品の管理方法
- ・日中活動への参加について
- ・各委員会からの報告 他

外部研修は、新型コロナウイルス感染症拡大予防のために、法人として参加を見合わせているが、Web研修などリモートでの研修は許可されて、栄養や感染に対する内容の研修に参加しました。

昨年度重症心身障害児者認定看護師を取得した看護師により、研修を通して学んだことを中心に他の看護師に伝達することで全体の看護の向上を図っています。

(診療課)

<リハビリ外来等>

理学療法士 3人(内1人は12月で退職)・作業療法士 2人(内1名は育休中)の体制で実施してきました。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響によって、緊急事態宣言中は外来リハビリや補装具外来を休止にしました。その分入所者への対応を充足させ、外来利用者に関しては相談等で対応してきました。外来再開後も利用者間の密を避けた対応や、入所・外来間を職員が行き来する際の管理等、感染対策を徹底してきました。

月に1回、持ち回りにて勉強会を実施し、情報共有やスキルの向上に努め、リハビリ内でのケースカンファレンスを増やすことで相談や学びの場としてきました。実習生の受け入れに関しては、2名予定していましたが中止となりました。

1 リハビリ外来

リハビリ外来利用者は、理学療法に75名(6歳未満8名・18歳未満29名・18歳以上38名)、作業療法に23名(6歳未満8名・18歳未満11名・18歳以上4名)が受診しています。新規受け入れは、理学療法7名、作業療法9名でした。

前年度と比較すると、理学療法は4007単位から2817単位と29.6%減となりました。作業療法は1320単位から573単位と56.5%減となりました。

昨年度から行っている未就学児対象のプール活動も、感染防止には配慮しながら実施することができました。浮力や水圧を活用することによりリハビリ室では見られない動きや反応を引き出すことが出来ました。

2 入所者へのリハビリ

前年同期と比較すると、理学療法は3194単位から4588単位と43.6%増となりました。作業療法は1710単位から1708単位と昨年同様の実施でした。

利用者は制約の多い生活を余儀なくされていたため、日々の生活の中で気分転換や刺激となるようにリハビリ内容も検討しました。運動や関わりを通しての気分転換だけでなく、スクリーンを活用したゲーム等も行いました。

短期・中期利用者に関しても個別介入や入所中の姿勢調整、車椅子の調整等、ご家族や職員の要望・必要性に応じて適宜対応しました。

<栄養管理>

1 給食管理業務

利用者及び職員の健康増進と、食の安全および嗜好や季節感に配慮した食事提供に努めました。

- (1) 月1回の行事食・お誕生日会ケーキやサイクルメニューの充実を図りました。また、メニューには旬の食材を取り入れ、季節感の感じられる食事の提供に努めました。
- (2) 本年度より新たな取り組みとして開始した“ご当地メニュー”について、利用者および職員からの意見を取り入れながら月1回の提供を継続しました。
- (3) 毎月、アンケートへの記載内容について給食委員会で公表し、意見や要望については委員会メンバーや委託給食会社と対策を検討しました。
- (4) 医師・管理栄養士の検食簿の記録から、見直しが必要な献立や調理方法等については検討を行いました。

2 施設設備・衛生管理業務

衛生管理の徹底を図り、安心・安全な食事提供に努めました。

- (1) 委託給食会社による給食提供に対し、安全・衛生についての管理・指導を行いました。
- (2) 厨房設備については必要に応じて点検や修理の手配を行い、適切な管理に努めました。
- (3) 定例の厨房内環境調査により、厨房の衛生状態について検査をしました(12月)
- (4) ヒヤリ・ハット(5件)の発生時に、再発防止に向けた原因分析と対策の検討を行いました。
- (5) 新型コロナウイルスの施設内感染を防止するため、厨房およびヴィエント(食堂)、その他各現場内の感染予防対策について検討・実施をしました。また、厨房における感染者発生時の対応についてマニュアルを作成しました。

3 栄養管理業務

定期的な病棟訪問や他職種との連携により、適切な栄養管理を行い、利用者の食事療養を推進するよう努めました。

- (1) 入居者の栄養ケア計画書を作成し、個別支援担当者会議にて他職種と

- 栄養ケアについて協議の上、ご家族へ計画書を送付しました。(1～3月)
- (2) 入居者の栄養スクリーニングと栄養管理計画書を毎月見直し、作成しました。
 - (3) 栄養や食形態などについて、他職種と適宜カンファレンス・打ち合せ等を行い、入居者個人の健康状態や嚥下機能に応じた食事を検討しました。

<薬 局>

1 医薬品の適正使用と情報提供

- (1) 薬事委員会を開催し、採用医薬品の検討や更新、備蓄量、品目を調整しました。
- (2) 随時、医療情報誌・公文書・メーカー通達書類、インターネット等に目を通し、情報を収集し、特に重要と思われるものに関しては、他の医療従事者と情報を共有しました。
- (3) 感染予防、消毒薬適正使用について、職員に対して情報提供をし、消毒薬の調製を行いました。
- (4) てんかん重積発作時の対応をマニュアル化し、看護師向けに説明会を開催しました。
- (5) 経管投与の利用者には、薬の品質、安定性、を保持できるように、簡易懸濁法を導入し、看護師向けに説明会を開催いたしました。
- (6) 薬に関する注意点や、新規に採用した薬の内容、看護師からの問い合わせが多い事項にたいして、「薬局だより」と発行し、看護師に周知いたしました。(令和2年度6回発行)
- (7) 高品質の後発品を選定し、採用することにより医薬品費の削減に努めました。

2 医療安全における医薬品安全管理。

- (1) 新人研修の際、当施設で使用している医薬品の内容や、副作用、また副作用発生時の流れなどを説明することにより、医薬品に関する基本的な知識を習得してもらい、医療安全を意識してもらうよう努めました。

3 在庫管理の徹底

- (1) 医薬品等の使用期限の調査を実施いたしました。(実施月：7月)
- (2) 医薬品の在庫量を把握し、過剰在庫をなくすために年2回棚卸しを行いました。(実施日：9/30、3/31、在庫金額(薬価換算)1,503,738円(188品目)、1,367,171円(200品目))
- (3) 世間で不足していたアルコール消毒液が足りなくなることがないように、月ごとの使用量を計算し、在庫管理を徹底することにより、施設内では常に各部署への安定した供給を維持することができました。

4 短期・中期利用者の持参薬の適正対応。

- (1) 短期・中期利用者の入所時の面談に立ち会い、看護課と連携して持参薬の管理

- を行いました。
- (2) 短期・中期利用者ご家族に対し、薬剤情報、保管管理、服薬方法などの指導を行いました。
 - (3) 持参薬について、調剤方法の要望や不明点の確認を薬局へ問い合わせることにより、地域連携に貢献いたしました。
- 5 専門職としての知識の向上および他施設との連携。
- (1) 薬剤師会、製薬会社等が開催する勉強会に出席し、薬学や医療に関する知識を習得しました。
 - (2) Zoom を利用して、他施設の薬剤師と定期的に情報交換を行い、関係構築に努めました。

地域支援部

<デイサービス>

1 利用者の状況 別紙資料【表7】参照

令和2年度新規登録者は、小田原市在住の重症心身障害者3名と身体障害者1名、大井町在住の重症心身障害者1名の計5名の登録がありました。

契約解除者は、7月に長期入所が決まった小田原市在住の重症心身障害者1名と身体障害者1名、12月に他生活介護を利用することになった南足柄市在住の重症心身障害者1名の計3名でした。

令和3年4月1日現在の登録者は、重症心身障害者24名、身体障害者16名、知的障害者1名の合計41名となっています。

また、1日当たり平均利用者は、14.0名となり、感染症流行などの影響により、前年同期より2.4名減となっています。

2 個別支援計画

評価に向けたモニタリング会議やケアカンファレンスを8月と2月に実施しました。9月と3月に個別支援計画（案）を基に、利用者および家族と個別面談を実施し、個別支援計画の説明と要望の聞き取りをおこないました。今回は、新型コロナウイルス感染症の影響のため、希望される方のみ面談を実施し、それ以外の方については、書面で内容を確認していただきました。

3 日中活動等 別紙資料【表8】参照

感染症予防のため、活動時に密にならない、物を共有しないことに気をつけて活動内容を検討しました。

利用者主体で活動内容を決める「リクエスト活動」では、オリジナルすごろくや手作りビリヤード等利用者が主体的に参加できるように工夫して実施することができました。

制作活動では、クリスマスツリーや書初め、ひな人形等を作成し、季節を感じられるようにデイサービスの部屋に飾りました。

季節の行事として毎年行っている「かき氷週間」や「クリスマス週間」は、感染症予防のため、食べ物を提供することができませんでした。「かき氷週間」の代わりに「夏祭り週間」を初めて企画したり、「クリスマス週間」では、曜日ごと実施内容を変えたりして利用者が楽しめるように企画・運営をおこないました。今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で残念ながら放課後等デイサービス「きゃんばす」との交流はできませんでした。

<ヘルパー事業>

1 利用者の状況

令和2年度末現在の利用契約者は、障害児者49名にサービスを提供しました。
(内訳：肢体不自由児2名、身体障害者16名、重心児7名、重心者12名、知的障害児2名、知的障害者6名、視覚障害者3名、精神障害者1名)

新規契約者は視覚障害者の1名でした。

契約解除者は施設入所をされた身体障害者、重心者各1名ずつ、サービス提供地区外へ転居された重心児、知的障害者各1名ずつの計4名となっています。

2 居宅介護計画の作成

上・下半期毎に、サービス利用者宅を訪問（新型コロナウイルスの影響により難しい方は電話で実施）し、主治医からの診療情報提供書、お薬手帳等の情報及び利用者・ご家族の意向をもとに居宅介護計画を作成・実施・評価を行い、また、サービス等利用計画の把握に努め、ケア会議に積極的に参加し、居宅介護計画の充実に努めました。

3 活動実績 別紙資料【表9】参照

- ヘルパー事業は、年々サービス提供時間が減少していますが、令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大のリスクや外出自粛等の影響が大きいものと思われます。
- (1) 居宅介護事業では、昨年度の1,150時間から今年度は999時間となり、移動支援事業は昨年度の578.5時間から今年度は300時間となっております。
 - (2) 同行援護サービスでは、昨年度の236.5時間から今年度の135.5時間と減少しています。
 - (3) 日中一時は、昨年度の4回から今年度は7回となっています。
 - (4) 福祉有償運送は、昨年度166回から今年度は422回となりました。走行距離では昨年度の625.1kmから今年度は2064.8kmとなりました。

4 多様な障害種別への対応

新型コロナウイルス感染防止の為、自宅内での自粛が影響し、精神疾患や行動障害がある方が不穏になり本人、家族の負担が増した傾向がありました。その都度本人の状態変化を見ながら支援に入らせていただき、また、行政、計画相談員などの他機関との情報の共有を図ることで、利用者の今後の支援についての確認

をしました。

5 障害福祉サービス地域拠点事業

「あんしんヘルパーネット」では、県西地域の福祉普及啓発や人材確保を目的とした福祉お仕事フェアを、6月開催で準備をしていましたが、新型コロナウイルス感染拡大のため延期しており、令和3年3月に足柄上地区地域活動支援センターや県西障害保健福祉圏域地域生活ナビゲーションセンターとの共催で「ちいきふくし博、ふくしフェア」を開催しました。内容も感染拡大防止のため、オンラインでの事業所の活動紹介や福祉従事者によるイベント PR シールの着用などで、地域の皆さまへ障害福祉の啓発をおこないました。

<相談室>

1 障害児者の障害福祉サービスの計画相談支援 別紙資料【表10】参照

- ・計画相談支援事業は、令和2年度末現在 144 名（内訳：在宅 87 名・入所 57 名）と契約しています
- ・計画相談支援 126 件、モニタリング 284 件、併せて 410 件行いました。
- ・前年度は、計画相談支援 113 件、モニタリング 297 件、併せて 410 件でした。
- ・計画相談支援・モニタリングの実施にともない、利用者の状況把握や必要な支援の提案、見直しを行い、利用者が安定して在宅生活を継続できるよう支援しています。また関係機関とは利用者に関する情報共有・意見交換を行うことで更なる連携を図れるよう取り組みました。

2 県西障害保健福祉圏域相談支援等ネットワーク形成事業

令和2年度においては、新型コロナウイルスの感染防止に伴う会議自粛要請が出されました。そのため、支援者間の会議などはリモートツールや書面等を活用し情報の共有・収集・発信を行い、人との物理的な距離を求められる中においても、連携協力体制を失することのないように実施しました。

(1) 各ネットワークの取り組み

ア 相談支援ネットワーク

平成 29 年度から、小児等在宅医療の推進部会において、小田原保健福祉事務所管内の関係機関による実態調査、課題の抽出・整理・共有をし、課題解決に向けて取り組まれてきました。今年度より、県西ナビと共催で協議の場の運営を継続しています。

令和2年度下半期は「医療的ケアがあってもともに暮らせるタウンミーティング」を2回開催しました。第1回では、小田原市立病院地域医療連携室 看護師より、地域における病院の機能・小児と家族の支援・地域医療連携室の業務・相談支援機関との連携等の講話をいただきました。第2回では、医療的ケアのあるお子さんとそのご家族の方より、体験談や医療ケア児の実際の生活、またご家族が抱える課題・地域に期待すること等についての講話をいただきました。今後も継続して開催していく予定です。

イ サービス提供ネットワーク

「サビ児管連絡会」を、リモートツールを活用して継続開催しています。サビ児管業務の確認と更新研修についての情報提供、個別支援計画についてのグループディスカッションを行いました。

ふくし人材不足解消の一環として予定していた福祉フェアは、足柄上地区ちいきふくし博と共催で3月に開催しました。新型コロナウイルス感染症対策として、集合型のイベントではなく、「ふくし月間」として、Web上での活動紹介やイベントに関連したシールを着用する等、障がい福祉の普及啓発を行いました。また、開成町飲食店組合にご協力いただき、ポスター等の掲載していただきました。

小田原養護学校 肢体不自由部門 在籍児童・生徒に関する情報交換会は、令和元年度から引き続き小田原養護学校と共催で、肢体不自由部門生徒の卒業後の受け入れ先事業所を中心に実施しました。以上のことについて、官民協働で地域課題の更なる考察と課題解決に向け協議しています。

ウ 地域移行・地域定着推進ネットワーク

精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築について、地域移行の事例検討会やピアサポーター養成の普及啓発を通して、協議体に参画していない事業所や支援者を巻き込み、支援者間の取り組みの相互共有を図ることができました。

障害児施設の過齢児の地域移行については、小田原児童相談所管内障害児施設入所児童の地域移行に係る連絡会」において、児童相談所、障害児入所施設等と協働し、量的課題を明らかにする為のアンケート調査についてリモート会議による検討を重ねています。

以上のことについて、官民協働で地域課題の更なる考察と課題解決に向け協議しています。

(2) 小田原市・箱根町・真鶴町・湯河原町地域障害者自立支援協議会、足柄上地区地域自立支援協議会との連携

2市8町相談支援事業所連絡会と連動し、リモート会議を実施し、地域生活拠点事業について県西ナビと小田原市から説明がありました。また、小田原市基幹相談支援センター設置、および小田原市障害者相談支援事業の再編について小田原市から説明がありました。

(3) 相談支援従事者初任者研修の講師派遣

相談支援従事者初任者研修に対して講師等を派遣し、新規の相談支援従事者とのネットワーク形成を図りました。

3 小田原市基幹相談支援センター事業受託

令和2年12月より、小田原市・箱根町・真鶴町・湯河原町から当法人が受託し、同1市3町を対象エリアとして開始しました。

地域における相談支援の中核的機関としての役割を担い、障がいのある方の相

談支援に関する業務を総合的に行う機能があります。

- (1) 総合的かつ専門的な相談支援
- (2) 地域の相談支援体制の強化
- (3) 地域障害者自立支援協議会の事務局運営
- (4) 情報収集と発信
- (5) 地域移行・地域定着の促進

以上のことを具体的な役割として実施しています。

4 障害者相談支援事業受託

令和2年12月より、障害者相談支援事業（おだわら障がい者総合相談支援センター）に当法人相談室が新しく加わりました。年齢・障害種別を問わず、ライフステージに応じた切れ目ない支援を実施しています。業務内容としては、福祉サービスの利用援助・社会資源活用のための支援・セルフプランフォロー・1市3町出張相談やピアカウンセリングに関する支援等を行っています。

<放課後等デイサービス「きゃんばす」>

1 利用者の状況 別紙資料【表11】参照

令和3年3月末日現在の利用登録者は、小田原市11名、南足柄市3名、箱根町1名の計15名となっています。その内、4月より利用者2名が体調不良等で長期利用休止のため、利用実人数は13名でした。

4～5月はコロナの緊急事態宣言や一斉休校要請を受け利用を控える方が多くいましたが、9月以降は通常登校に戻ったことや9、11月に2名の新規利用登録もあり、当年度の延べ利用者は1,031人（前年比約4.6%増）となりました。しかし、登録者数が減少していることもあり、今後はニーズを捉えたサービス提供を思索し、新規利用者の受け入れが課題となります。

2 個別支援計画の充実

コロナ禍においてもご家庭や関係機関との情報が停滞することなく連携を図り、知り得た情報は職員間で共有しました。また、日々の支援の中にご利用者に関する小さな気付きなどを記録用紙やアセスメントシートに整理することで、本人の身体状況や機能、興味などの日々の変化を汲み取ることができ、ニーズに沿った細やかな支援に役立てることができました。

3 日中活動の状況 別紙資料【表12】参照

今期はコロナ禍のため障害児が自宅で過ごす時間が多く、外からの刺激や身体を動かす機会の低下が懸念されたため、ストレッチ・バルーン遊びなどのスポーツ活動や施設周辺の散策などを多く取り入れ、身体的機能の低下やストレス軽減を図りました。また、南国体験（水遊び）・お正月遊びなど季節行事では、ゲームの要素を取り入れ、季節の移り変わりを体感しながら友だちとの関わりも楽しめるように工夫しました。

4 家族支援

利用者やご家族と細やかな情報を交換する手段や機会として、個別面談・連絡帳のやり取り・送迎時の対話・電話でのご相談などを実施しました。今期はご家族から排泄用品(オムツやパットなど)のご相談や家事都合による送迎時間調整などのご要望が複数ありました。迅速な対応を心掛け、部署内で話し合いご要望に沿えるようにしました。

<地域活動支援センター事業>

1 利用者の状況 別紙資料【表 13】参照

令和3年3月末現在では、南足柄市33名・開成町17名・大井町7名・山北町6名・中井町7名・松田町2名合計72名となっています。その内訳は、児童8名・身体障害者3名・精神障害者47名・知的障害者14名となっています。

2 事業実施時間と利用状況

児童は、水曜日・木曜日の10時から13時、成人は、月曜日・火曜日・金曜日は10時から16時、木曜日は14時から19時までとなっています。

なお、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、緊急事態宣言後、令和2年4月から6月末までは、一部縮小しての運営(児童部門は休止・個別相談のみの対応、成人部門は密を避けるため、利用時間帯を分け、午前もしくは午後限定した利用)としました

令和2年度は、234日開所し、延べ1605名(内・児童194名)の利用がありました。一日平均6.9名となっています。

前年度は、241日開所し、延べ1705名(内・児童395名)の利用があり、一日平均7名でした。

3 日中活動・地域活動等

共生社会の実現に向け、今年度も児者の交流、障害種別を問わずに参加できる活動に取り組みました。児童と成人の交流においては、成人利用者が協働して児童部門で療育活動に利用する玩具(ダンボールハウス等)の制作に取り組み、成人利用者は「役に立って良かった」という自己肯定感に繋がりました。また、児童の療育場面では玩具を活用してもらうことで児童の興味を引き出すことに繋がっています。

4 普及啓発事業(地域支援) ちいきふくし博・ふくしフェア(令和3年3月開催)

令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大予防の為、大規模集合型のイベントは行わず、オンラインでの活動紹介や福祉従事者によるイベントPRシールの活用等によって普及啓発を行いました。

行政及び県西地区の福祉事業所、養護学校、飲食店組合等の協力により、官民一体で開催に向けた準備を行いました。ホームページの主な内容は、当事者及び事業所の活動紹介、前年度のちいきふくし博 絵画作品の紹介、ボランティア募

集や事業所見学の案内等です。

公開したホームページは開始から1週間で2,000アクセスを超え、アンケートでは「初めてこのイベントを知ったが、また来年も来たい」「障害を抱えるご本人たちが語る動画は深く心に残った」等の反響が寄せられています。ホームページは随時更新予定であり、さらなる閲覧促進を図り、住民と当事者との接点を広げていきます。

<児童発達支援事業「くまさん教室」>

今年度は、コロナ禍のため感染対策に努めることはもとより、緊急事態宣言下において南足柄市と協議の上、時間短縮や、活動内容の縮小をしながら運営をおこないました。

また、コロナ感染症対策として、新規ケースの受け入れや見学を7月まで見合わせる事となり、南足柄市でも乳幼児の健診や、フォロー教室の開催を7月まで延期していた事と重なったため、新規ケースの紹介に至りませんでした。下半期になり2名の登録があり年度末には未就園児童8名・就園児童12名となりました。

1 開所日時・開所時間

	くまさん教室	みかん組
内容	未就園児を対象として、生活習慣の確立や社会性を獲得するために、集団または個別で療育をする	就園児を対象として、社会性や簡単なルールを獲得できるように、小集団で療育をする
開所日時	月曜日～金曜日	火曜日・木曜日・金曜日
開所時間(4月～6月末)	9:30～11:30	14:00～15:30
開所時間(7月～3月末)	9:30～12:00	14:30～16:30

2 利用状況

未就園児童は年間延べ971名の利用がありました。

就学児童は年間延べ655名の参加がありました。

3 内容

(1) 発達支援

目の前にいる児童を良く知ること。何が好きか、困っていることは何か、ひとりひとりの児童の発達段階や特性を丁寧に見極めたうえで、個別支援計画に反映させられるようにしました。

個々の特性に合わせて、視覚支援教材や感覚遊び教材もスタッフ間で手作りするなどして、利用児童が自発的に参加しやすいような活動内容を用意しました。また、何を行う空間か理解し易いように、間仕切りをして環境設定することで、落ち着く環境作りに配慮しました。その結果、個々の活動意欲も高まり、子ども同士のコミュニケーションもとりやすい状況となっていきました。今後も、利用児童の活動意欲につながるような支援を目指して参ります。

(2) 家族支援

送迎時の保護者からの聞き取りが不十分にならないように、日々の様子なども細やかに伝え合い、職員間で連携しながら保護者の不安軽減に努めました。

(家庭連絡帳・電話対応) また、送迎時の保護者や児童の様子等から、家庭内で児童に対する対応の仕方が心配されるような場合や、保護者から悩みや不安が発信出来ずにいるような場合は、積極的に個別面談の機会を設けることとしました。

7月からは定期的に心理士による個別面談の機会を設け、児童の発達段階や、具体的な対応の方法の提示、就園・就学に対しての心構えなどを伝えてもらい、客観的に親子の考察を依頼し、職員間での共通理解にも努めました。また、月2回の母子通園(うち1回は保護者会)も感染に留意した上で、プログラム内容も考慮し行いました。保護者同士が気軽に日頃の子育ての悩み事などを吐き出せる場となり、交流を持つことで、保護者間で情報交換する姿もありました。

(3) 地域支援

児童及びその家族に対して、身近な地域資源の情報提供と、地域移行がスムーズに進むようにとの思いから、月に1回「障がい児業務連絡会」へ参画、事業ごとの現状報告を行い連携に努めました。

近隣の就園・就学に対する情報を保護者に向けて提供すると共に、保護者から出された疑問等には迅速に対応してもらえるように、関係機関との連絡調整を行いました。また、児童や保護者の希望する就園先の見学に向け連絡調整を行い、当日同行もすることにより、就園先と保護者との関係強化に繋がるように努めました。

就園児童については、南足柄市派遣の巡回支援職員と、毎月一回カンファレンスを行い、必要に応じて幼稚園・保育園と連絡調整を行いながら、児童の支援に対する共通理解を図ることが出来ました。

地域のボランティアグループとの定期的な交流を通じて利用児童の社会経験の幅を広げられるような機会を設けました。また、近隣の方のご厚意により未就園児親子が、みかん狩り体験をさせてもらうことも出来ました。

<別紙：実績等資料>

(重症心身障害児者施設)

1 利用状況及びベッド稼働率

【表1】長期入所

定員 47 人	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
4/1 在籍 (人)	45	46	47
3/31 在籍 (人)	46	47	47
実利用者 (人)	46	48	47
医療ケア度	内/準超重症児者 9 名	内/準超重症児者 9 名	内/準超重症児者 9 名
年内延数 (人)	16,632	17,077	16,890
稼働率 (%)	96.9	99.2	98.4

※ベッド稼働率=延数計÷(定員×【4月～3月総日数 365日】)×100

【表2】中期入所

定員 3 人	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
4/1 在籍 (人)	3	3	1
3/31 在籍 (人)	3	1	2
実利用者 (人)	9	7	9
医療ケア度	内/超重症児者 1 名 内/準超重症児者 1 名	内/超重症児者 1 名 内/準超重症児者 1 名	内/超重症児者 1 名 内/準超重症児者 2 名
年内延数 (人)	777	738	350
稼働率 (%)	71	67.2	31.9

【表3】短期入所

定員 2 人	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
4/1 在籍 (人)	0	0	1
3/31 在籍 (人)	1	1	2
実利用者 (人)	28	34	28
医療ケア度	内/超重症児者 1 名 内/準超重症児者 6 名	内/超重症児者 1 名 内/準超重症児者 6 名	内/超重症児者 1 名 内/準超重症児者 6 名
年内延数 (人)	606	640	643
稼働率 (%)	83	87.4	88

■総計 (長・中期 短期)

定員52人	平成30年度	令和元年度	令和2年度
年内延数(人)	18,015	18,455	17,882
稼働率(%)	94.9	96.9	94.2

令和元年度 太陽の門 日中活動実績表

【表4】目的別活動月別参加者

活動/月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	延
陶芸	回数													
	人数													
コーヒー クラブ	回数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
	人数	8	8	8	8	8	6	8	8	8	8	8	8	96
デザート クラブ	回数	-	1	1	1	1	1	-	1	-	-	-	-	6
	人数	-	6	6	6	6	8	-	12	-	-	-	-	44
音楽 サークル	回数	2	2	3	2	3	2	1	1	-	2	-	3	21
	人数	10	18	18	13	23	10	4	5	-	8	-	17	126

※外部講師による陶芸とピアノ演奏会については、新型コロナウイルスの感染対策のため実施できず。

※夏季プール活動(7/22-9/23) 11回/延41名参加

【表5】目的別外出

内容	行先	参加回数	参加人数
春の散歩週間(4~6月)	施設周辺	4	21
北条五代祭り	小田原市内	中止	0
箱根病院花火大会	箱根病院	中止	0
市役所コンサート	小田原市役所	中止	0
個別外出	足柄万葉公園(ドライブ)	39	86
	箱根新道~芦ノ湖(ドライブ)		
	フラワーパーク方面(ドライブ)		
	荻窪地区~市役所方面(ドライブ)		
	マクドナルド		

【表6】主な小集団活動

月	4月	5月	6月				
内容	食事会	S側昼食会	お茶会	リハとバルーン	グループ活動	S側ランチ会	N側ランチ会
場所	家族室	4Fテラス	家族室	4Fテラス	4Fテラス	S側デイルーム	家族室
参加者	4	4	4	7	7	3	4

月	6月	7月		8月			
内容	N側おやつ会	S側食事会	ランチ会	ランチ会	花火大会①	花火大会②	花火大会③
場所	家族室	家族室	家族室	家族室	2F駐車場近辺	2F駐車場近辺	2F駐車場近辺
参加者	4	5	5	4	6	7	6

月	9月						
内容	ランチ会	敬老会	キックベース大会	パンケーキ作り	食事会	ゲーム大会	花火大会④
場所	家族室	ヴィエント	4Fテラス	ヴィエント	家族室	4Fテラス	2F駐車場近辺
参加者	2	6	6	8	4	8	8

月	9月		10月				
内容	ランチ会	マット運動	フラワーアレンジメント	花火大会⑤	20歳撮影会	ミニ秋祭り	花火大会⑥
場所	家族室	4Fテラス	4Fテラス	2F駐車場近辺	施設内	3Fデイルーム	2F駐車場近辺
参加者	7	5	3	7	1	全員	7

月	10月		11月				
内容	ランチ会	花火大会 ⑦	希望を語る会	N側流し 温そうめん	焼き芋大会	S側流し 温そうめん	ランチ会
場所	4F テラス	2F 駐車場 近辺	S側デイルーム	N側デイルーム	職員玄関前	S側デイルーム	家族室
参加者	7	8	S側全員	N側全員	全員	S側全員	7

月	12月						
内容	フラワー アレンジメント	クリスマス ディナー会	粗大×リ ラク	陶芸	S側流し 温そうめん	粗大×リ ラク	ランチ会
場所	4F 休憩室 前	家族室	4F 休憩室 前	各デイルーム	S側デイルーム	家族室	家族室
参加者	4	4	4	3	S側全員	6	11

月	1月				2月		
内容	ファッションショー	ランチ会	コンサート ①	コンサート ②	成人式	ダンス 発表会	ランチ会
場所	S側廊下	3F	S側廊下	N側廊下	各デイルーム	N側デイルーム	S側デイルーム
参加者	S側全員	7	S側全員	N側全員	全員	22	12

月	2月		3月				
内容	節分	フラワー アレンジメント	ミラアカ 写真撮影 会	エステ企 画	ランチ会	写真立て 作り	ランチ会
場所	各デイルーム	4F 休憩室 前	N各居室	家族室	家族室	4F 休憩室 前	3F ベランダ
参加者	全員	3	N側全員	1	5	8	6

(地域支援事業)

1 デイサービス

【表7】利用状況

区 分	平成30年度	令和元年度	令和2年度
開所日数	251日	254日	255日
延べ利用者数	3671名	4188名	3583名
利用者数/日	14.6名	16.4名	14.0名

【表8】日中活動の状況

活動項目	実施日数	参加利用者数	活動項目	実施日数	参加利用者数
陶芸	10日	139名	リクエスト活動会議	50日	646名
園芸	8日	124名	リクエスト活動	50日	696名
スポーツ	58日	829名	制作	71日	1041名
お楽しみ活動	5日	77名	ハロウィン	5日	78名
夏祭り	5日	76名	クリスマス	5日	68名
成人を祝う会	2日	27名			

2 ヘルパー事業

【表9】

区 分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
居宅介護(時間)	1928.5	1716.5	1302.5	1150	999
同行援護(時間)	264.5	254.5	247.5	236.5	135.5
移動支援(時間)	1154	755	782	578.5	300
日中一時(回)	45	15	2	4	7
福祉有償運送(回)	683	513	381	286	422

3 相 談 室

【表10】計画相談支援・モニタリング実施状況

区 分	平成30年度	令和元年度	令和2年度
契約者数	128名	139名	144名
計画相談支援件数	88名	113名	126名
モニタリング件数	209名	297名	284名
合 計	297件	410件	410件

4 放課後等デイサービス

【表 11】 利用状況

区 分	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
開所日数	250日	251日	253日
延べ利用者数	1181名	986名	1031名
利用者数/日	4.7名	3.9名	4.1名

【表 12】 日中活動の状況

活動項目	実施日数	参加利用者延数	活動項目	実施日数	参加利用者延数
水遊び	4日	15名	季節行事・お楽しみ会	37日	199名
スポーツ活動	52日	190名	散歩	14日	51名
制作	49日	184名	手遊び・音楽	10日	36名
読み聞かせ	9日	40名	光遊び・リラクゼーション	13日	42名
個別課題活動	104日	358名	園芸活動	16日	44名
避難訓練	9日	37名	大掃除	2日	12名

5 地域活動支援センター事業

【表 13】 利用状況

区 分	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
開所日数	249日	241日	234日
延べ利用者数	1426名	1705名	1605名
利用者数/日	5.7名	7.0名	6.9名

< 共 通 部 門 >

1 委員会開催状況

委 員 会	開催回数	検 討 内 容
経営会議	12回	財務・事業の基本方針等重要事項審議
運営会議	12回	経営会議報告、提案・改善事項等の審議
衛生委員会	12回	職員の安全、衛生に関する情報を把握し対応を検討

医療安全管理委員会	1 2回	コロナ対応策の検討、医療事故等の未然防止策の審議
感染対策委員会	1 2回	感染の予防対応に関して検討
褥瘡対策委員会	1 2回	褥瘡の予防対応に関して検討
薬事委員会	1 2回	医薬品に関する事案の検討、確認。
給食委員会	1 2回	食事、栄養関係の全体での報告、検討
研修委員会	1 2回	研修全体の計画実行
リスクマネジメント委員会	1 2回	事故等に関する対応対策を評価
権利擁護虐待防止委員会	6回	施設利用者の人権擁護等

2 研修実施状況

(1) 法人内研修（延べ376名参加）

研修名	日時	参加数	講師及び内容
職場内研修	4/19 15:00～15:45	5名	診療課 石黒 優子薬剤師 「てんかん重積時に使用する薬について」
	7/1 15:00～15:45	4名	
職場内研修	4/22 15:00～15:45 3/25	7名	看護課 加藤 淳子看護師 「てんかん発作について」
新人職員研修	7/1 9:00～12:00	7名	リハスタッフ 管理栄養士 「トランスファー」「食事提供に関する配慮」
	6/24 9:00～17:20	7名	大川施設長、大友センター長 他「理念、歴史、沿革」他
	1/15 9:30～12:00	4名	地域支援センター長 大友 崇弘 「権利擁護 チームアプローチ」他
	2/15 9:00～16:00	5名	地域支援センター長 大友 崇弘 「権利擁護 チームアプローチ」他
摂食指導研修	4月～8月・12月～ 3月は新型コロナウイルスの感染拡大予		神奈川歯科大学 歯科医師 赤坂 徹 氏

	防のため中止 9/13 12:00～15:30 10/9 12:00～15:30 11/13 12:00～15:30 計3回	11名 9名 8名	
伝達研修「重症心身障害者の特徴」	10/21	10名	加藤淳子(認定看護師)
WEB「感染と免疫について」	11/11 11/18 11/24	24名	ネスレ日本 栄養の視点から感染と免疫について
WEB「腸を使うを考える会」	11/20 12/9	21名	ネスレ日本 急性期から慢性期までの期間で腸を使う取り組みとして利点などについて
WEB「コロナ禍におけるインフルエンザ対策」	11/23 11/24	17名	メディバンクス ナースの薬の使い方や予防方法について
WEB「体位ドレナージ・ダブルチェックの効果・モニタリングキットの効果」	12/1	8名	メディバンクスナースの3人の専門家から10～15分ずつのプログラムで効果や利点について
法人主任・リーダー研修	12/14	13名	法人研修委員長 地域支援センター長 大友 崇弘
伝達研修「重症心身障害者のてんかん発作」	3/25	17名	加藤淳子(認定看護師)
法定研修(感染対策・PPE着脱研修・ビデオ視聴)	5/8 5/13 5/29 6/5	54名	東京都保健福祉局 PPEの着脱方法
法定研修(権利擁護研修)	11/2 11/4 12/2 12/7 1/20 2/25	11名 11名 9名 11名 9名 4名	研修委員長 「不適切な支援の起こる要因と対策」グループワークでの実施

法定研修(感染対策・PPE着脱研修・実施)	11/16 11/19 11/27 12/9 12/10 12/23 12/30 1/4 1/8 1/12 1/19	44名	感染委員(工藤・古家・眞鍋)
法定研修(褥瘡対策研修)リハ課による基本的なポジショニング研修	2/15 2/17 2/19 2/22 2/23 2/26 3/1 3/2 3/5 3/6 3/8	46名	リハ課スタッフ(PT廣澤・PT順風・OT清水) 基本的なポジショニングの構造から必要性、実践

(2) 外部研修参加状況 (延べ9名参加)

脳卒中とてんかん WEB セミナー	1名
神奈川県西部薬局連携 WEB セミナー	1名
全国重症心身障害児者医療技術管理コース WEB 研修会	2名
重心施設の新型コロナウイルス感染症対策研修ライブ配信	1名
医療事故調査制度研修会ライブ配信	1名
重症心身障害看護師フォローアップ WEB 参加	1名
同行援護従事者養成研修	1名
相談支援従事者現認研修	1名

3 事故、ヒヤリハット件数

(1) 重心施設 (事故28件 ヒヤリハット68件)

種別	内容	件数
事故 28件	抜薬、落葉	8
	誤薬	3
	異食(衣類・枕カバー)	2
	ストマ肉芽にパウチ貼る	1
	爪切りで出血	2
	足部に水疱	2
	腹臥位中にクッションから転落	1
	デールームテレビ破損	1
	右大腿骨骨折(プレート折れる)	1
	右眼下の内出血	1
	利用者私物の破損(テレビなど)	1
	火傷	1

	採血の人間違い	1
	右足首の腫れ	1
	歯が抜ける	1
	インフルエンザワクチンの重複接種	1
ヒヤリ 68件	ランドリーにて異物混入発見	15
	ベッド柵関連 (バックル忘れ等)	6
	ベッド布団上の忘れ物 (歯、プラスチック片)	7
	NGチューブ、カニューレ抜去	1
	内出血 (額、左眼周囲、右足)	5
	足首親指打撲	1
	誤配薬、遅薬	4
	腹臥位クッションと共に右側転倒	1
	利用者を抱えたまま職員が転倒	1
	水分量の重複	1
	補装具左右はき間違い	1
	シリコンスプーン破損	1
	点眼薬がゴミ箱に入っていた	1
	居室の扉にバックルを短時間かける	1
	おもちゃによる圧迫	1
	浮き輪で擦り傷	1
	私物紛失 (短期利用者)	1
	利用者が利用者に接近しひっかく	2
	トランス時頭部をぶつける	1
	移動中に肘を擦る	1
	車いすから利用者自身が一人立っていた	1
	プールで背中に擦り傷	1
	トランス時右わきを擦ったような赤み	1
	枕カバーをかむ	1
	クッションをかむ	1
	物品の置き忘れ	1
	利用者が夜間帯サークルベッドより自力で出ている	1
	利用者がビニールを持って遊んでいた	1
	パーカーのフードで顔が覆われていた	1
	衣装ケースの転倒	1
利用者がタオルを嚙んでいた	1	

	期限切れの点眼薬の使用の可能性	1
	手の赤み、咬み跡	1
	薬箱の中に粉薬がこぼれていた	1
	落薬	1

(2) 地域支援課 (事故38件 ヒヤリハット28件)

種 別	内 容	件 数
事故 38件	異食(キルティングマット・防水シート)	2
	利用者宛ての請求内容の誤り	1
	利用者の右鼠径部付近の内出血痕	1
	利用者の肘を車いすアームレストに挟む	1
	利用者の左背部変形の凸部分に発赤の発見	1
	車両事故(ブロックとの接触・養護学校のプール棟スロープ手すりに当てる)	2
	車両事故(利用者宅カーポートの屋根に当てる)	1
	車両事故(走行中、隣の車に接触され、相手に逃げられた)	1
	車両事故(送迎時、狭い道を通り車体を擦ってしまった)	2
	利用者下肢装具の左右履かせ違い	1
	配膳時の食事落下	1
	利用者の医療部品の破損(シリンジ)	1
	利用者降車時の転倒	1
	送迎車の後ろ扉を閉めた時に他のスタッフの頭に当たった。	1
	送迎車壁面への接触	7
	送迎車内で他利用者につかまれそうになる。	1
	送迎車で利用者のシートベルト着用忘れ。	1
	脚立が滑り、乗っていた職員が怪我をした。	1
	利用者肘付近に縦横 2cmくらいの傷を発見	1
	利用者電動車いすが動かなくなる。	1
	利用者胃ろうチューブ抜去	1
	職員が利用者に介助中指を噛まれた。	1
	利用者プラスチックフックの破損	2
	利用者持参の水分補給ボトルを落として持ち手部分を破損してしまった。	1
送迎中車椅子のフック固定とシートベルトがされていない。	1	

	利用者の車椅子ヘッドレストが破損(折れていた)	1
	利用者の頸椎保護サポーターと眼鏡を他利用者が掴み落とし てしまった。	2
ヒヤリ 28件	送迎車のリフト昇降時に当事業所の傘を挟み破損する	1
	送迎中の対向車接近によるニアミス	1
	利用キャンセル日の間違い	1
	使用後のフェイスシールドが車両のリフトに挟まる	1
	利用者のシューズケースを事業所に置忘れる	1
	利用者がベットマットと手すりの間に足を挟む	1
	利用者の私物(キーホルダーチャーム)の破損	1
	車内灯の消し忘れ	1
	走行中の車両に風で煽られた障害物が当たる	1
	休み連絡の聞き間違い	2
	トイレ誘導時の怪我	1
	車いすクッションの付け間違い	1
	物品の返し忘れ	1
	当日利用お休み連絡で食事が欠食されていなかった。	1
	三日月クッションの入れ忘れ	1
	NGチューブ自己抜去	1
	ヘアピン紛失	1
	SPO ₂ モニターコード外れ	1
	利用者書類を破いてしまった	1
	利用者三角マット入れた布団から転げ落ちてしまった。	1
利用者が活動中びっくりして転んでしまった。	1	
車いすの操作間違い(ティルトとリクライニング)	1	
利用者に職員が空き缶を渡してしまった。	1	
利用者自ら怪我をし、出血しているところ発見した。	2	
ランドリー異物混入	2	

(3) 診療課 (事故1件・ヒヤリハット12件)

種別	内容	件数
事故1件	リハビリ中の利用者が転倒	1
ヒヤリ 12件	食事に髪・ビニール片など異物混入(厨房)	5
	錠剤の錠数間違い(薬局)	4

	薬袋に薬以外のものが混入（薬局）	1
	鍵の返却忘れ（リハビリ）	1
	医療証・保険証の返却忘れ（リハビリ）	1

4 防災訓練等

日 時	部 署	訓練内容
4月27日 30日	重心施設 放デイ	部署別の避難訓練
5月25日 26日	重心施設、リハビリ 放デイ	部署別の避難訓練
6月5日 22日 24日	リハビリ 重心施設 放デイ	部署別の避難訓練
7月31日	全体	*総合防災訓練・通報訓練
8月7日 24日 19日 31日	リハビリ 重心施設 デイ 放デイ	部署別の避難訓練・消火訓練
8月31～ 9月4日	全体	職員安否確認訓練
9月11日 20日 24日 28日	リハビリ デイ 放デイ 施重心設	部署別の避難訓練・消火訓練
10月2日 22日 26日	リハビリ 放デイ 重心施設	部署別の避難訓練・消火訓練
11月25日	全体	消火訓練
11月30日	全体	*総合防災訓練・通報訓練
12月7日 22日 26日	地活 リハビリ 重心施設	部署別の避難訓練・消火訓練
1月25日 26日 21日	重心施設 デイ 放デイ	部署別の避難訓練
2月5日	リハビリ	部署別の避難訓練・消火訓練

19日	デイ	
22日	重心施設	
24日	放デイ	
3月1・ 15日	全体	利用者家族安否確認訓練
3月 5日	リハビリ	
11日	放デイ	地震想定避難訓練
22日	重心施設	
30日	デイ	

5 施設設備等の整備・保全

(1) 主な保守点検

- ・電気設備 ・エレベーター ・自動ドア ・ボイラー ・空調機器
- ・ランドリー機器 ・厨房機器 ・医療ガス ・機械浴槽 ・浄化槽

(2) 一般修繕など

- ・事務所プリンター更新 204,000円
- ・給水ポンプユニット制御盤交換工事 418,000円
- ・浄化槽微細目スクリーン交換工事 404,000円
- ・入退室ターミナル等入替 594,000円
- ・蒸気式加湿器更新工事 2,007,000円
- ・3階機械浴槽修理 150,000円
- ・厨房エアコン内部洗浄 352,000円
- ・SOG（保護継電器）交換工事 267,000円
- ・女子更衣室エアコン更新工事 646,000円
- ・非常照明交換工事 374,000円
- ・給湯1次循環ポンプ交換工事 209,000円
- ・不要物品処分 144,000円
- ・GHP 室外機更新工事 6,710,000円

(3) その他

- ・日常清掃及び特別清掃（ワックス塗布、ガラス清掃等）
- ・施設周辺植木・草刈等環境整備

6 ボランティアの受け入れ

内容/月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
地域ボ ラ	回数	-	-	-	1	1	1	1	1	1	-	-	-	6
	延	-	-	-	4	3	3	4	5	5	-	-	-	24
車椅子 清掃	回数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0
	延	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0
個別支 援	回数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0
	延	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0
外出 支援	回数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0
	延	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0

※新型コロナウイルスの感染対策により施設内にて実施されるボランティアについて受入を中止。7月～12月の期間に間接的な地域ボランティアの受入を開始していましたが、1月に発令された再度の緊急事態宣言を受け、年度内の受け入れを中止となる。

7 実習生・研修生の受入状況

種別	学校	期間	人数
保育士	大原学園保育専門学校	6/1-12	中止
	大原学園保育専門学校	6/15-25	中止
	鶴見女子大学	7/27-8/9	中止
	小田原短期大学	8/17-21 (期間短縮)	1名
	鎌倉女子大学短期大学部	8/24-9/5	1名
	鎌倉女子大学	9/14-26	1名
	神奈川社会福祉専門学校	10/19-10/23	中止
	神奈川社会福祉専門学校	10/26-10/30	中止
	和泉短期大学	1/12-1/22	中止
	和泉短期大学	2/8-2/20	中止
	鶴見女子大学	2/22-3/5	中止
	湘北短期大学	3/8-3/19	1名
計			4名

※大原学園保育専門学校と鶴見女子大学については、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う学校側から判断により実習中止となる。